

煙突出口からのばいじん(2Bq/m³)を仮定した場合の試算 (大気拡散予測モデルである、プルームモデルによる試算の結果)

周辺環境の大気中の濃度限度(*)は下式で表されます。

$$\frac{\text{セシウム134の濃度(Bq/m}^3\text{)}}{20(\text{Bq/m}^3\text{)}} + \frac{\text{セシウム137の濃度(Bq/m}^3\text{)}}{30(\text{Bq/m}^3\text{)}} \leq 1$$

(*)濃度限度

同一人が0歳児から70歳になるまでの間、当該濃度の放射性物質を含む空気を摂取したとしても、被ばく線量が一般公衆の許容値(年間1mSv)以下となる濃度として設定されています。

○ 仮に、煙突出口からばいじん(2Bq/m³)が排出された場合の 最大着地濃度(地上に到着するときの最大濃度)での試算

(環境影響評価において、一般的に用いられているプルームモデルを用いた。有効煙突高7.96mと設定。)

- ・風速2m/sの場合、最大着地濃度距離は50mであり、1/800までうすくなって、0.0025Bq/m³になります。
- ・風速6m/sの場合、最大着地濃度距離は120mであり、1/6000までうすくなって、0.0003Bq/m³になります。